

温泉分析書

- 温泉利用施設名 美人湯 祥風苑
- 源泉名及び湧出地 源泉名：摂津峡 花の里温泉 式号泉
湧出地：大阪府高槻市塚脇 4-1548-1
- 泉 質 ナトリウム－炭酸水素塩温泉
(低張性・アルカリ性・低温泉)
- 登録分析機関(登録番号) (株)東邦微生物病研究所(大阪府第4号) 代表取締役 西村公一
大阪府大阪市浪速区下寺 3-11-14

5. 湧出地における調査及び試験成績

- 調査及び試験者 株式会社東邦微生物病研究所 内田 昭二
- 調査及び試験年月日 2018年11月9日
- 泉 温 33.6℃ 調査時における気温 20.3℃(浴槽 40.0℃)
- 知覚的試験 無色、透明、無味、弱硫化物臭、気泡の発生有り
- 水素イオン濃度(pH) 9.0(ガラス電極法)
- 電気伝導率 1390 ×10⁻⁴ S/m(25℃)
- 酸化還元電位(ORP) +224mV (N.H.E・25℃)
- ラドン(Rn) 20.4Bq/Kg 5.5×10⁻¹⁰Ci/Kg 1.51 マッヘ単位

6. 試験室における試験成績

- 調査及び試験者 株式会社東邦微生物病研究所 内田 昭二、樫井 成匡、米林 真希
- 分析終了年月日 2018年11月26日
- 知覚的試験 無色、透明、無味、弱硫化物臭(試料採取後72時間)
- 密 度 0.9989 g/cm³(20℃/4℃) 1.0007 g/cm³(20℃)
- 水素イオン濃度(pH) 9.1(ガラス電極法)
- 蒸発残留物 0.89 g/kg (乾燥温度 110℃)

7. 試料1kg中の成分・分量及び組成

(1)陽イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
リチウムイオン Li ⁺	0.1	0.01	0.07
ナトリウムイオン Na ⁺	330.5	14.38	99.31
カリウムイオン K ⁺	1.3	0.03	0.21
アンモニウムイオン NH ₄ ⁺	0.2	0.01	0.07
カルシウムイオン Ca ²⁺	0.9	0.04	0.28
アルミニウムイオン Al ³⁺	0.1	0.01	0.07
陽イオン 計	333.1	14.48	100.0

(2)陰イオン

成 分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
ふっ化物イオン F ⁻	30.4	1.60	11.07
塩化物イオン Cl ⁻	31.6	0.89	6.15
水酸イオン OH ⁻	0.2	0.01	0.07
硫化水素イオン HS ⁻	0.5	0.02	0.14
硫酸イオン SO ₄ ²⁻	2.7	0.06	0.41
炭酸水素イオン HCO ₃ ⁻	589.4	9.66	66.80
炭酸イオン CO ₃ ²⁻	66.7	2.22	15.35
りん酸水素イオン HPO ₄ ²⁻	0.1	0.00	0.00
陰イオン 計	721.6	14.46	100.0

8. 成分に影響する項目

- 加水について 加水していません
- 加温について 入浴に適した温度に保つため加温しています
- 循環ろ過について 衛生管理及び自然保護のため循環ろ過を施しています
- 入浴剤の使用について 使用していません
- 消毒処理について 衛生管理のため塩素系薬剤を使用しています

温泉分析書別表

1. 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等

分析結果による療養泉分類に基づく禁忌症、適応症等は環境省自然環境局長通知(平成26年7月1日)環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

なお、温泉療養を行うにあたっては、以下の点を理解して行う必要がある。

- 温泉療養の効用は、温泉の含有成分などの化学的因子、温熱その他の物理的因子、温泉地の地勢及び気候、利用者の生活リズムの変化その他諸般によって起こる総合作用による心理反応などを含む生体反応であること。
- 温泉療養は、特定の病気を治癒させるよりも、療養を行う人の持つ症状、苦痛を軽減し、健康の回復、増進を図ることで全体的改善効用を得ることを目的とすること。
- 温泉療養は短期間でも精神的なリフレッシュなど相応の効用が得られるが、十分な効用を得るためには通常2～3週間の療養期間を適当とすること。
- 適応症でも、その病期又は療養を行う人の状態によっては悪化する場合があるので、温泉療養は専門的知識を有する医師による薬物、運動と休養、睡眠、食事などを含む指示、指導のもとに行うことが望ましいこと。

(1) 浴用の禁忌症 泉質別禁忌症 該当項目なし

温泉の一般禁忌症	病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動く息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期
----------	---

(2) 浴用の適応症 泉質別適応症 きりきず、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症

療養泉の一般適応症	筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進
-----------	---

2. 入浴上の注意事項

(1) 浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア. 入浴前の注意

- 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- 過度の疲労時には身体を休めること。
- 運動後30分程度の間は身体を休めること。
- 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
- 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ. 入浴方法

- 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
- 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
- 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。
- 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ. 入浴中の注意

- 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ. 入浴後の注意

- 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと)。
- 脱水症状等避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ. 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ. その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。